

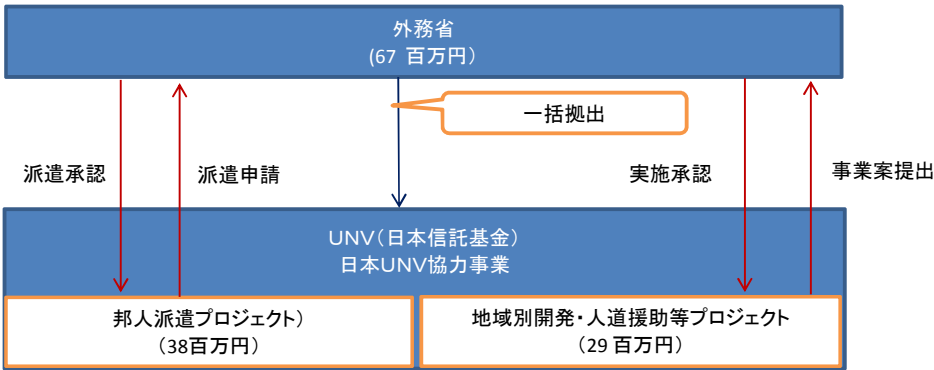
平成23年行政事業レビューシート

(外務省)

事業名	国際連合ボランティア計画拠出金(日本UNV協力事業)(任意拠出金)		担当部局庁	国際協力局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成6年度開始		担当課室	地球規模課題総括課		課長 松浦 博司		
会計区分	一般会計		施策名	Ⅶー3 国際機関を通じた地球規模の諸問題に係る国際貢献				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項		関係する計画、通知等	第25回国連総会決議第2659(XXV)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	若い世代が自発的に、途上国の発展に貢献することを目的として設立されたUNVの活動を支援するとともに、日本人に国連ボランティアとして国際機関で勤務する機会を提供することを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	(1)邦人派遣プロジェクト:途上国において、その国の政府又は国際機関等が実施する各種の開発・人道支援活動に対し、日本人の国連ボランティアを派遣。 (2)地域別開発・人道援助等プロジェクト:途上国において、UNVが(日本を含む)世界各国からの国連ボランティアを動員し、主体的に取り組む開発・人道支援等のプロジェクト。 (上記のいずれにおいても、ボランティア派遣のための経費は現地生活費、住居費、渡航費等のみ。)							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☒ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	121	105	67	57	49	
		繰越し等	45	41	38	—		
			—	—	—	—		
		計	166	146	105	57	49	
	執行額	166	146	105				
執行率(%)	100%	100%	100%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	1997年11月の第52回国連総会において、日本の提案に基づき122カ国の共同提案国を得て、2001年をボランティア国際年とすることを宣言する決議が採択された。今年12月、日本は国際ボランティア10周年の決議案を提出する予定。前回の決議と同程度の共同提案国数の維持を成果目標とする。		成果実績	国	該当なし	該当なし	該当なし	122
			達成度	%	—	—	—	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	世界のボランティアリズムの普及を目的としていることから、国連ボランティア計画を通じてボランティアを派遣している国の総数を活動指標とする。		活動実績 (当初見込み)	国	159	158	確認中	確認中
					195力国中	195力国中	195力国中	195力国中
単位当たりコスト	57,514 (ドル/人) (注:見積ベースで算出)		算出根拠	・単位当たりコスト＝1年間の邦人派遣経費の総計/派遣人数 ・各地域プロジェクトの規模はそれぞれ異なることから、単位当たりコストの算出は不可。				
平成23年度 (単位:千円) 予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	国際連合ボランティア計画拠出金(日本UNV協力事業)	57,166	48,559	拠出額減額				
	計	57,166	48,559					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	・UNVとの間で、迅速な拠出金の執行・残余金の有効活用のため、運用の改善措置を2009年に実施。また、日本の拠出金額ピーク時の1／3以下に大きく落ち込んでおり、これに伴い日本人ボランティア派遣数も年間27名(2002年)から9名(2008年)に激減し、国際社会で我が国のプレゼンスを示すための日本人ボランティアの派遣機会が損なわれており、これ以上の削減は困難である。事業内容について引き続き適切に把握し、事業が効果的に辞しされるよう注視していく。		
予算監視・効率化チームの所見			
抜本的改善	拠出額減額		
	上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)		
(縮減)拠出額減額			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
●事業仕分け(第1弾、事業番号2-50、事業名 国際機関等への任意拠出金) 【結果】見直しを行う(ただし、右「結果」及び下記「コメント」は28の国際機関等への任意拠出金全体を対象としたもの) 【コメント】第2WGとしては、更なる見直しを求めたい。重複の排除及び民間実施等の観点から、見直しを行っていただきたい。また、可能なものは国に返 還することも行っていただきたい。なお、見直しの観点にあてはまらない拠出金については、見直しを行わないことにも留意して、新政権の下で具体的に精査を行う必要がある。また、外交の目的は国益たることを前提として、効果や検証の仕組みをきちんと作るべきであり、体験談や印象による正当化では国費を投入する根拠にはならないという点も考慮して、検証・改善していただきたい。最後に、いつまでこの拠出金を出し続けるかについても、戦略が見えていないことから、新政権の下でしっかりと議論を求めたい。			

※平成22年度実績を記入



資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途 (「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の 金額が支出されている者について記載する。費 目と使途の双方で実情が分かる ように記載)	A.			E.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	拠出金	邦人派遣プロジェクト	38			
		地域別開発・人道援助等プロジェクト	29			
	計		67	計		0
	B.			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	C.			G.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	D.			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国際連合ボランティア計画	国連ボランティア派遣	57		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					